

# 今こそあなたの Mastery for Service を!

田 淵 結

クリスマスであれだけにぎわった関西学院のキャンパスも、1月になるともう大学は学年末、定期試験、レポートの季節になります。また卒業論文の提出に追われている4年生の方々もおられることでしょう。そのなかでもうひとつキャンパスの1月にとって忘れられないもの、それが1月17日です。数年前からこの日はもう定期試験期間になってしまっていますのでその当日、特別なプログラムはなされずに、大学では13日に記念の合同チャペルが行われますが、あの阪神淡路大震災から15年という日を今年迎えます。一年生諸君にとっては3～4歳のころ、しかし、その記憶を生々しくお持ちの方も多いことでしょう。

関西学院大学では、現役の学生諸君15名、現役の教員1名をはじめとして多くの関係者の方々が犠牲になり、家族を失い、ご自身もケガをし、また実家や下宿などに住めなくなったり、と多くの被害を受けました。その年は関学大にとっては総合政策学部開設の年、2月最初に予定されていた入試をはじめとして、新しい学部をどう順調にスタートさせられるかなどの対応にも追われました。

あれから15年、平穏なキャンパスを歩きながら、あの大地震のことがキャンパス全体から忘れ去られていこうとしていることもまた感じさせられます。そういえばキャンパスにあの地震があったことを記念するモニュメントなどがあるのでしょうか、と思って中央講堂の新月池側のところに行ってきました。ありました! 1996年1月17日、震災からちょうど周年目の記念日に、関西学院ヒューマンサービスセンターが「震災のことを忘れない」という誓いをこめて植樹した木がしっかりと根付いていました。

関西学院ヒューマンサービスセンターは、震災直後、教職員学生の有志、その多くは自らも家や下宿で被災したメンバーでしたが、自分たちが今できることを、ということで災害救援ボランティア組織を立ち上げたのがきっかけでした。その最初のとき、静岡から来たという一人のOBが、一枚の大きな紙に「今こそあなたのMastery for Serviceを!」というコピーの入ったポスターを書いて、そのまま立ち去って行かれました。その方が誰なのか、今も謎ですが、そのコピーがその後関学でのボランティア活動とその方向性を確かめるための言葉となりました。

震災が忘れられてしまうこと、それは突然あの大きな悲しみに向き合わされた人々の気持ちを忘れること、そしてそのために自分たちができることを考え、Mastery for Serviceのもとにそれを実行した先輩たちの働きを忘れることになってしまうことを恐れます。そこで皆さんにも、このとき、「今こそあなたのMastery for Serviceを!」と訴えたいと思います。

教育学部教授 (宗教主事)

関西学院ヒューマンサービスセンター教員代表